

豊平川での記憶

当研究所の裏を豊平川が流れている。現在は、水質が改善されてきれいな川となっており、ちょうど今の時期は鮭が遡上し、また、ルアーやフライなどの釣りをしている人を見かけることから、ニジマスやヤマメなど鱒類も生息しているようだ。また、河川環境整備により、広場やサイクリングロードなどが整備され、多くの市民により利用されている。このような豊平川であるが、テレビゲームなどのまだなかった30年余り前の小・中学生の頃、比較的自宅から近いことから自転車でよく遊びに行っていた豊平川下流部でのあやふやな記憶であるが気になっていることを紹介したい。

誰の話だったかは覚えていないが、小学生の頃よく聞かされた話として、昔は豊平川にもたくさんの鮭が上ってきたものだというのがあった。石狩川水系豊平川河川整備計画を見ると、「豊平川は、かつて鮭が遡上していた川であり、本格的な増殖事業が昭和12年から始まり稚魚の放流等が実施されていたが、札幌の人口増加に伴う家庭排水や工場排水による水質悪化により、稚魚の放流と親魚の捕獲についてそれぞれ昭和23年と昭和28年を最後に中止されていた。その後、豊平川の水質は下水道整備などにより改善され、市民グループによる「カムバックサーモン運動」が始まった昭和54年春には、稚魚の放流が約30年ぶりに再開され、昭和56年秋には親鮭の回帰が確認された。」と記載されている。ということは、昭和28年頃には鮭の回帰が少なくなり、その後途絶えたものと考えられ、ちょうど私が小・中学生だった昭和45年から53年は鮭の回帰が途絶えていた期間となる。

この期間の後半、特に中学生になってからは、国道275号の雁来橋下流にあった雁来堰堤と呼ばれていた箇所付近にウグイやフナ釣りにかなりの回数通っており、ときには、ヤマメやアメマス等も釣れることがあって驚いたものだった。その中で一度、記憶があやふやであるが、確か昭和52年のまだ雪があったので春休みだったと思うが、岸辺の流れが緩やかになっているところで体長5～6cmの魚が群れをなして泳いでいるのを発見した。1匹網ですくってみたところ、パーマーク（サケ科の幼魚に見られる小判形の斑紋）があることから、サケ科の魚であるとは分かったが、その時はその魚が何であるかまでは確認しようとは考えなかった。

その後、何かの機会に鮭は孵化した後5cm程度に成長し、春に降海するという生態の話を聞いて、もししたら中学生の時に見たサケ科の稚魚は鮭ではなかったのかと思うようになり、また、その年は、たしか「カムバックサーモン運動」が起こる前で、鮭の回帰が途絶えていたとされる期間だったはずであることから、実は、鮭はわずかではあるが回帰していたという重大な発見であったのではないかとと思うようになった。

鮭の稚魚らしきものを発見した年と、「カムバックサーモン運動」が始まった年が近いことから、単なる記憶違いなのかとも知れないし、誰かがこっそりと個人的に稚魚を放流したのかも知れない。また、実際は鮭の稚魚ではなかったのかも知れない。かなり昔のことであり、現時点では確認のしようもないが、市民の鮭の回帰は途絶えているという先入観や水質の悪化による豊平川への関心の低さのなかで、鮭が回帰し続けているのを発見されずにいたのではないかとひとりで勝手に考えている。

(寒地交通チーム上席研究員 葛西 聡)

* * * *

表紙左上記号 ISSN 1881-0497の説明

国際的なコード番号であるISSN (International Standard Serial Number : 国際標準逐次刊行物番号)は、ISSN ネットワークが管理する、逐次刊行物を識別するための固有の番号です。この番号は国立国会図書館ISSN日本センターから付与されたものです。